

早稲田大学 大学院教育学研究科 出題意図および解答例

年 度	2027年度
試 験 日	2026年9月19日
研 究 科	教育学研究科
課 程	修士課程
専攻・コース等	学校教育専攻
入 試 制 度	一般・外国学生
試 験 科 目	専門科目

出題意図及び解答例（解答のポイント）

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

教育学、社会教育学、教育心理学および初等教育学のうち、志望する研究指導領域に関して、基礎的な知識および論理的に思考し説明できる力を評価・判定する。

■解答例（解答のポイント）

設問Ⅰ（教育学）

※問題1・問題2のどちらの問題も、特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。

解答のポイント/評価のポイント

問題1

- (1) 学校経営の人的条件にかかわる「教員不足」問題を取り上げ、関連する諸施策の意義について先行研究の知見をふまえて論理的に説明できるかどうかを評価した。
- (2) GIGAスクール事業の現状を論理的に説明しているかという観点から評価した。
- (3) 公立小中学校の適正規模や適正配置に関する問題について、最新の政策動向も踏まえて教育行政学の観点から適切に説明できるかを評価した。
- (4) 平成初の学習指導要領に関する特徴を尋ね、教育課程の歴史に関する基本事項を把握できているかを評価した。
- (5) ルソーの思想について基本的な理解をしたうえでこれを手がかりとして論理整合的な論述がなされているかを確認し、それを通じて論理的思考能力を評価した。
- (6) 1900年前後の欧米社会の状況及びそこから発生した教育的要求について理解し、両者を関連づけて新教育運動の特色について説明されているかを評価した。
- (7) 1947年「学校教育法」によって成立した戦後日本の中等教育の制度的な特徴について、旧制度のそれと対比しながら正しく説明できるかどうかを評価した。
- (8) 「教育とジェンダー」に関する現状と課題について正しく理解し、比較教育学の観点から、各国の事例に基づき適切に説明されているかどうかを評価した。

問題 2

教育学に関連した各項目について、それらの語句が意味する概念や内容等を正しく理解し、選択した項目に関して適切に解説することができているかどうかを評価した。

設問Ⅱ（教育社会学・社会教育学）

※問題1・問題2のどちらの問題も、特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。

解答のポイント/評価のポイント

問題 1

- 【1】 社会教育を、市民の学習権を保障し、地域課題の解決を支える公共制度として理解しているかを評価した。また、社会教育職が行政と市民をつなぐ専門職であることを踏まえ、公共性・地域社会・民主主義の観点から、その役割を論理的に論じることができるかを評価した。
- 【2】 教育費負担と進路選択に関するテーマを題材として、先行研究の到達点を踏まえて研究課題を設定し、その課題に対応した仮説または分析視角、概念化、データの把握方法、調査・分析方法を一貫して構想できるかどうかを評価した。また、研究の限界および倫理的配慮を含め、社会調査を具体的に設計するための基礎的な理解を評価した。
- 【3】 計画的な運営の必要性を理解した上で、制度的に評価やそれに基づく運営改善が求められている現状等について、自分なりの議論が展開できているかを評価した。

問題 2

教育社会学、社会教育学に関連した各項目について、それらの語句が意味する概念や内容等を正しく理解し、選択した項目に関して適切に解説することができているかどうかを評価した。

設問Ⅲ（教育心理学）

※問題1・問題2のどちらの問題も、特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。

解答のポイント/評価のポイント

問題 1

- 1) 主要な認知機能（注意・実行機能・ワーキングメモリ・社会的認知など）を整理し、それぞれが授業理解・課題遂行・友人関係・教師との関係にどう現れるかを具体的事例とともに示し、最後に特性理解に基づく学習・対人支援の方向性を簡潔にまとめているかが評価の中心となる。
- 2) 臨床面接における転移現象の扱いについて押さえた上で、クライアントとセラピストの恋愛関係が治療面接の伸展にどのようなネガティブな影響を与えるかについて適切に論じることができるかが、評価のポイントである。
- 3) Albert Banduraの唱えた社会的認知理論と自己調整学習研究の関係について正しく理解し適切に論じられているかどうかを評価した。

- 4) ERG理論について正しく理解し、マズローの欲求階層説との共通点ならびに相違点を踏まえて適切に論じられているかどうかを評価した。
- 5) いじめが生じる集団の力動について多面的に理解しているか、および、第三次予防（問題が生じる背景をアセスメントし、継続的に支援する段階）について具体的に説明できているかを評価した。

問題 2

教育心理学や関連領域についての(1)～(14)の各項目について、それらの語句が意味する概念や内容等を正しく理解し、選択した項目に関して適切に解説することができているかどうかを評価した。

設問Ⅳ（初等教育学）

※問題1・問題2のどちらの問題も、特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。

解答のポイント/評価のポイント

問 1

- (1) 「自立した学習者」の育成や協働学習について正しく理解し、それらの育成や展開の基盤となる学級集団づくりに関して適切に論じられているかどうかを評価した。
- (2) 新教育（進歩主義教育）に関する理論とそのなかで創設された学校を正しく理解し、新教育（進歩主義教育）を推進した学校における基盤となる理論、具体的な実践やその特徴・意義に関して適切に論じられているかどうかを評価した。
- (3) 現在報じられている子どもを巡る問題やそれに対して美術教育が成し得る可能性について正しく理解し、自身の考えとその考えを実践するための具体的なアイデアを適切に論じられているかどうかを評価した。
- (4) 自然科学の学習における学習者の自然認識について正しく理解し、「科学的に同一の知識や概念で説明できることよりも、学習者が重要であると考えていること」について、具体例を示しながら適切に論じられているかどうかを評価した。
- (5) 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために現在議論されている「深い学びの実装」に関する教育学の研究知見や次期学習指導要領に向けた中央教育審議会の議論等について正しく理解し、「深い学び」が実現している状態やそれを実現するための授業づくりで大切な要素を、具体例を挙げて適切に論じられているかどうかを評価した。

問 2

初等教育学に関連する教育学・心理学・教科教育学・教育方法学等に関連した(1)～(21)の各項目について、それらの語句が意味する概念や内容等を正しく理解し、選択した項目に関して適切に解説することができているかどうかを評価した。

以 上